

この度、金沢市民芸術村アート工房では、うらあやかの個展を開催いたします。うらあやかは、パフォーマンスや映像、絵画などのメディアを使い、相反する物事を反転したり、攪拌したりすることによってその関係性を問う作品を制作してきました。それは、対立する様々な関係、例えば敵と味方、性差、外と内などの中間をとる（中間はそれ自身が強固な「基準点」になりうる）のではなく、自身の身体にその両方が含まれ、絶えずせめぎ合っていることから出発しているように思われます。ゆえにうらの実践は、バラバラなものがバラバラのまま関わり合う、あるいはバラバラのまま繋がるにはどうすれば良いのか。ということについての身体的／協働的实践であるといえるのではないでしょうか。あらゆる情報の中、どのような態度を一貫するか問われ続ける現在において、まずはそれぞれの異なる態度がひしめき合う場があるということ。その態度の正誤を明確にするのではなく、それぞれの距離を図ること。互いに相反するかもしれない者との関係の中で身体が作り変えられること。そういった場面を通してそれぞれの態度を確かめ合うような、「バラバラなままそこにいることができる」という態度を示すものとして本個展を行います。

金沢市民芸術村アート工房ディレクター 宮崎竜成



主催：金沢市民芸術村アクションプラン実行委員会
 共催：金沢市、公益財団法人金沢芸術創造財団
 企画運営：宮崎竜成、モンデンエミコ

△ マスク着用・検温・手洗いの徹底、ソーシャルディスタンス等、新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力ください。なお、観覧状況が変更になる場合がございます。

うらあやか 個展

貝の／化石が／跡を残して／化石の／雌型／となった／身体



うらあやか Ayaka URA

1992 神奈川県生まれ
 2015 武蔵野美術大学油絵学科卒業

相反する物事を反転若しくは攪拌する装置としての作品を目指す。観客との協働によって成立させる参加型パフォーマンス作品を多く制作。作品形態の一つとして、展覧会やイベントの企画にも取り組む。2016年より「Ongoing Collective」メンバー。2019年より東京造形大学に事務所を持つ学生自主創造センター「CSLAB」管理人。都賀めぐみと共に美術に関わる女性たちのパーティ「female artist meeting」の運営を行なっている。

主な個展
 2019 「私はそれをダンスの素子と名付ける」（広島芸術センター、広島）
 2017 「BALLROOM DANCE LESSON」（V54 Gallery、香港）
 2017 「The body dances freely」（Art Center Ongoing、東京）

主なグループ展
 2021 対馬アートファンタジア 2021（対馬アートセンター、長崎）
 2019 引込線／放射線（埼玉、東京、神奈川など首都圏各所で展開）
 2019 TERATOTERA2019 - 選択の自由 -（東京）
 2019 Bridge（ホアイアン、ベトナム）

主なパフォーマンス公演
 2020 展覧会の中のお店「METAMORPHOSES」（ワタリウム美術館、東京）
 2019 ソロ公演「おどる墓石 その2」（ちぎれたみみず）（筒のような身体）（blanClass、神奈川）
 2018 「Rebel Action #2 ARTIST ARMY」Rebel Art Space（バンコク、タイ）
 2017 「引込線 2017」（旧所沢第2給食センター、埼玉）

Website: <https://urayaka.jimdo.com/> Instagram: <https://www.instagram.com/urayaka> Twitter: <https://twitter.com/urayaka>



《鐘と聞わらうとする身振り（真正な関係は壊れてしまった。）》
 The dance of trying to be with bee (The appropriate relationship has been broken by.)
 2018、インクジェットプリント



《差異と差別、何も関係のない、切り離された、別の仕事（塩っぱいアイスクリームショップ）》
 Difference and discrimination, Unrelated, separated, Another job (salty ice cream shop)
 2019、パフォーマンス



《青いドレスを着る、空いた墓に座る、八朔を食べる》
 Wearing a blue dress, sitting in an empty grave, eating oranges
 2019、パフォーマンス